

死者1万5000人以上 阪神大震災を上回る被害 **緊急アピール**

トルコ大地震

25万人の被災者
救援活動にご協力を!

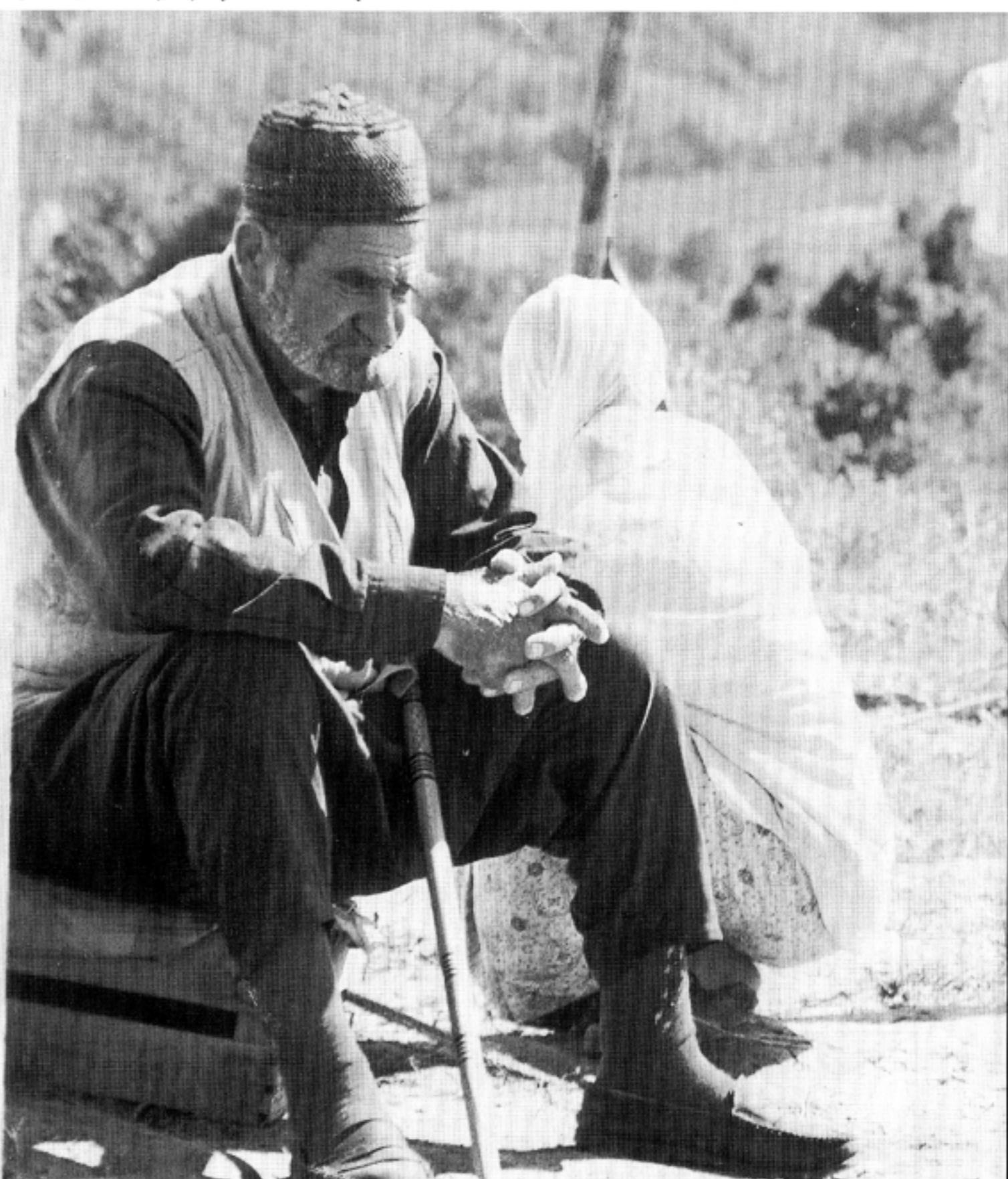
(社)シャンティ国際ボランティア会(SVA) (旧称:曹洞宗国際ボランティア会)



トルコ史上最悪の被害

- 死者 1万5000人以上
- 行方不明者 3万人以上
- 負傷者 2万5000人以上
- 被災者 25万人以上
(家をなくした人)

(9月10日現在)



地震のショックは今なお深く... (ギョルジュク市被災者集合テント村)

8月17日未明に発生したトルコ大地震の被害は、日を追つて規模の大きさや深刻さが明らかになってきました。現在確認されているだけでも、死者・負傷者ともに1995年の阪神大震災の被害を大きく上回っています。

現地調査団を派遣

SVAは、スタッフ2名をトルコに派遣し、トルコのNGOと協力して調査を行ないました。被害状況と救援活動について調べた結果、もっとも被害が大きく、救援活動が遅れているアダバザール市を支援対象地域とすることを決定。今後は、すでに活動を開始している現地NGOの、NGO連絡協議会(CCC)と調整し、そのメンバーであるトルコエンジニアリング協会連盟(TMMOB)などと連携を取りながら、15万人を超えるともいわれる同市被災者の救援活動を支援します。そのためSVAは、

日本人スタッフを被災地に派遣し、トルコの人びととともに、救援活動とモニタリングを行ないます。

SVAの取り組む緊急支援

阪神大震災とは異なり、今回のトルコ大地震では公共施設の多くが倒壊しました。そのため、被災した人びとは、政府のつくった集合テント村に避難するか、自宅近くの公園や空き地で避難生活を送っています。SVAは、現在一番必要とされているテントや簡易トイレ、簡易バス、簡易排水浄化設備の敷設に充てるために、第一次支援金を緊急支出しました。また、救援事業の総費用として、6000万円規模の予算を目標に、さらなる支援を展開していく予定です。

「トルコ大地震救援募金」への皆様のご支援をお願いいたします。

苦しい避難生活



がれきの山と化した道沿いの建物（ギョルジュク市中心部）

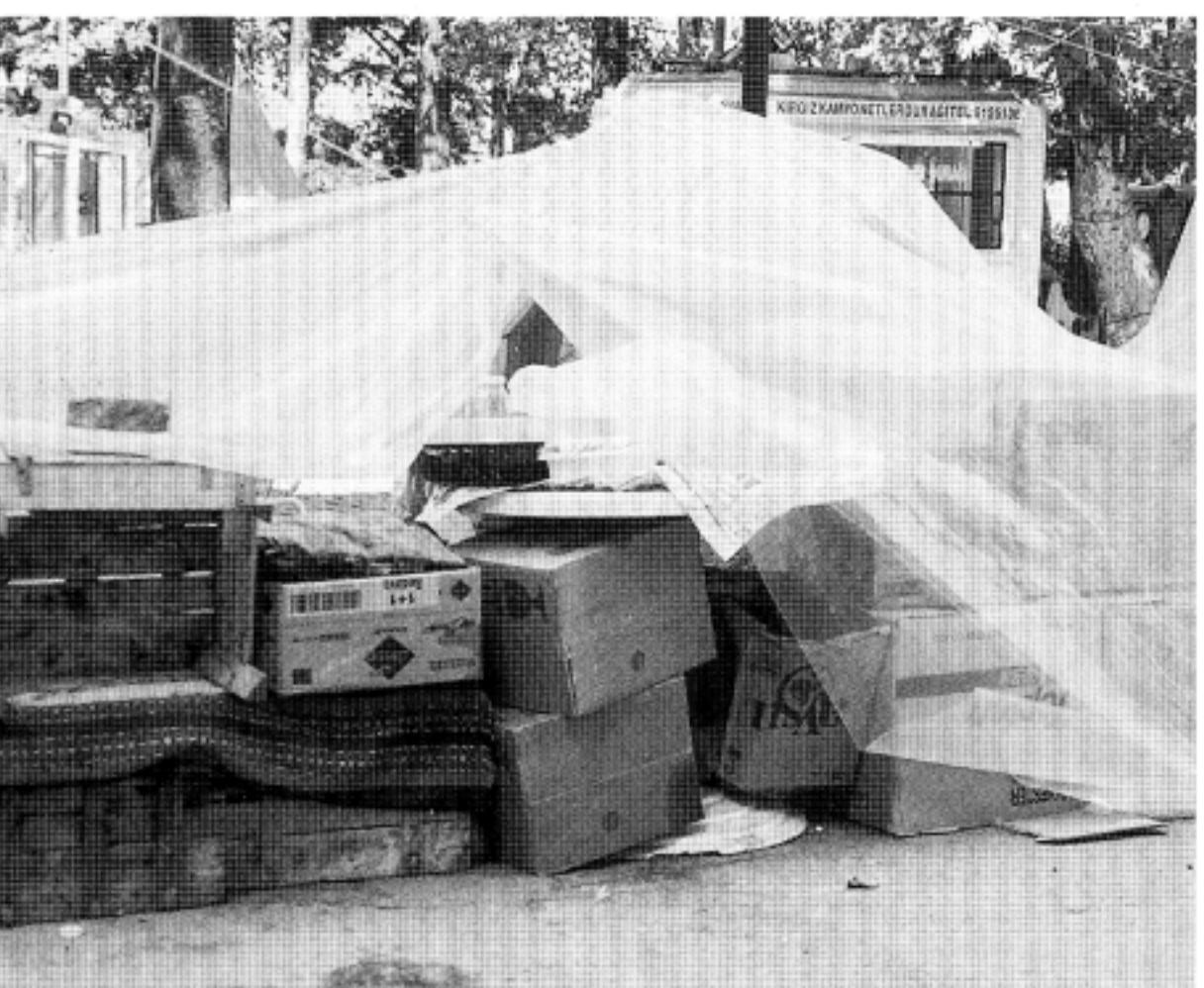
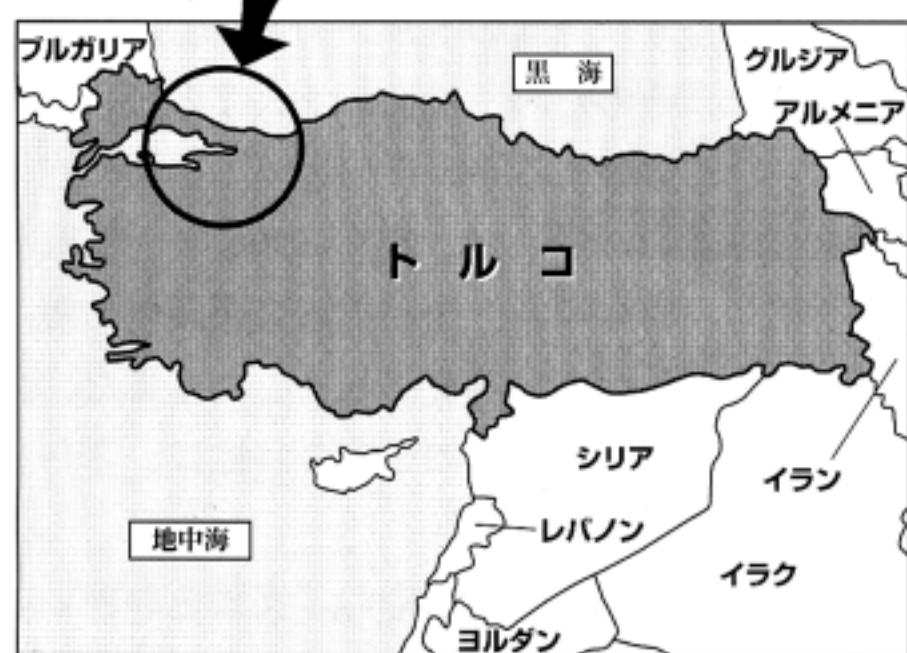


崩壊した建物（ヤロワ市中心部）

SVAが支援の対象に選んだアダバザール市は、震源地イズミットの東33キロに位置しています。人口35万人のうち、死者2600人あまり、負傷者5000人以上と、今回の大地震でもっとも被害が大きかった町です。現在、35の集合テント村に約7万5000人が避難しており、自宅近くで避難生活を送る人びとも含めると、15万人を超える被災者がいると推定されています。

緊急活動の立ち遅れから、被災者はトイレやバスの設備もほとんどない、厳しい環境の中で避難生活を送っています。SVAは、アダバザール市周辺の1万人の被災者の生活環境を改善する目的で、テント、簡易トイレ、簡易バスほかの費用として第一次支援金を送りました。

現地NGOからは、SVAが1995年に取り組んだ阪神大震災の際の救援活動経験から、被災者支援の効果的なすすめ方や、救援団体同士のネットワークづくりについても助言を求められています。



内外から寄せられた救援物資（ヤロワ市）



民間団体による食料配布（ギョルジュク市）

差しのべられる援助の手

トルコ国内や近隣諸国からの、食料や医薬品、衣類などの救援物資の配布も始まっています。しかし、公設のテント村を離れて暮らす人びとには物資が届きにくいなど、被災者救援のための態勢づくりも大きな課題です。冬の寒さの厳しいトルコでは、間もなくやってくる冬への対策も急務です。地震発生直後と、避難生活に入ってからでは必要とされるものも変わってくるので、適格な援助のためには被災地の状況をよく知る現地NGOとの連携が不可欠です。



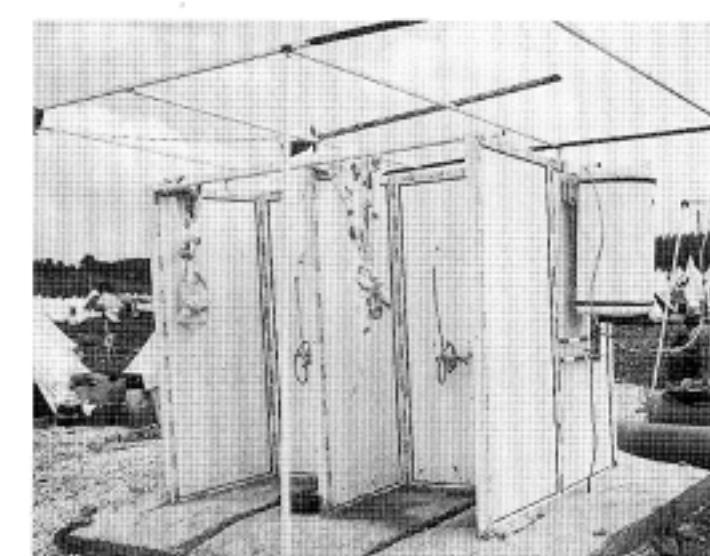
集合テント村での衣類の配布（デルマンデレ町）



被災者のために用意されたテント
床に木製のパレットを敷いて使う



テント村の簡易トイレ



テント村に設置された
温水シャワーは数が足りない



飲料用水のタンク



2500人を収容する政府の集合テント村（ギョルジュク市）



自宅近くの路上でテント生活をする人びと（アダバザール市）

緊急アピール

トルコ大地震 救援募金のお願い

トルコ大地震被災者に救援物資を配布するための
資金となる募金をお願いします。

使 途

テント、簡易トイレ、簡易バス、簡易排水浄化設備の敷設など、被災者の生活環境改善を支援するための資金

受付期間

1999年11月末まで

送金方法

郵便振替（同封の郵便振替用紙でご送金いただくと、振り込み手数料がかかりません）。なお、銀行振込・現金書留でのご送金も受け付けております。

*刻々と変わる現地の状況に対応しながら、より効果的に支援するために、物品の寄付はお受けしておりません。事情をご理解くださいますようお願いいたします。

●郵便振替

□座番号 00170-8-397994

加入者名 SVA緊急救援募金

*通信欄の「トルコ大地震救援募金として」にチェックマークをお書きください。

*勝手ながら、払取扱票右側の「払取票兼受領証」をもって領収証に代えさせていただきます。別途領収証を必要とする場合は、通信欄に「領収証要」の項に○印をおつけください。追って郵送いたします。

●銀行振込

指定銀行 三和銀行 巣鴨支店

□座番号 普通預金 3580105

□座名義 (社)シャンティ国際ボランティア会

*お振り込みの際は、あらかじめ、ご住所・お名前・お電話番号・ご送金額を当会経理担当あてにお知らせください。電話、ファクシミリ、またはE-mailでも結構です。追って領収証を郵送いたします。

お送りいただいた緊急救援募金は、たとえば下記の設備を整えるのに役立ちます。

●テント（1張り300ドル） 仮設住宅ができるまでには数か月が必要です。1つの小さなテントに、4人の家族が暮らすことができます。

●簡易トイレ・簡易バス（トイレ1つ500ドル／バス1つ400ドル） およそ25人が1つのトイレ・バスを共用でき、現在の被災者テント村の劣悪な衛生状態を改善できます。

●簡易排水浄化設備の敷設 上下水道が復旧するまでのあいだ、当座の汚水を衛生的に処理します。

*そのほか、テントを覆う防水ビニールシートや木製のパレットなどについても、被災地の状況によりもっとも必要とされているものを、お寄せいただいた募金の額に応じて購入します。また、ご協力いただいた方には、救援事業終了後に事業の報告書と収支報告書をお送りいたします。

お問い合わせ先

社団法人 シャンティ国際ボランティア会東京事務所（SVA）
(旧称:曹洞宗国際ボランティア会)

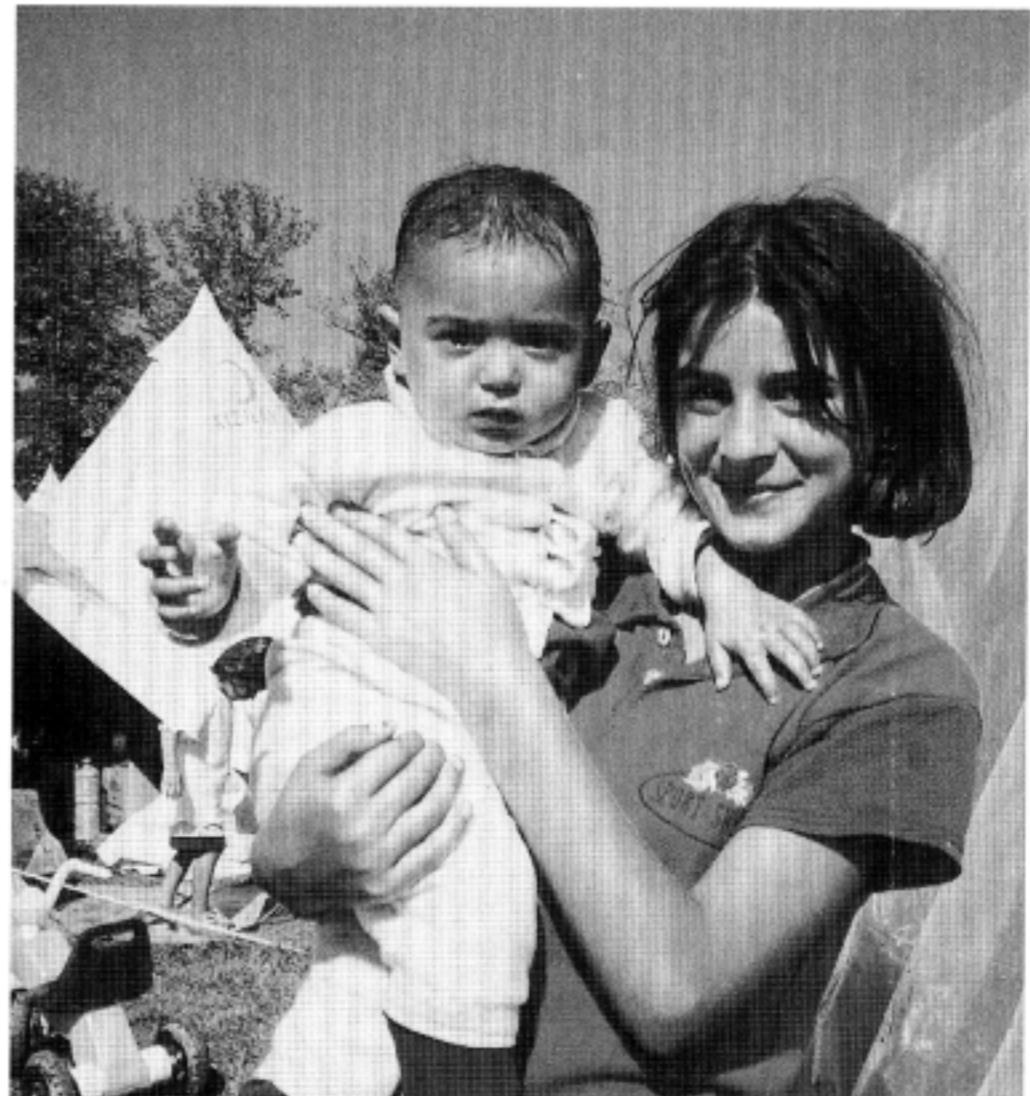
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3F

担当 「トルコ大地震救援」担当

TEL 03-5360-1233 / FAX 03-5360-1220

URL=<http://www.jca.apc.org/sva/turk.html>

E-mail=sva.network@pep.ne.jp



自宅近くの避難テントで生活する少女（ヤロワ市）